

研修親睦旅行 平成25年9月7日(土)～8日(日)

於：熱川温泉

INDEX

研修親睦旅行	1
例会委員会報告	2
白井先生連載	2
会員企業訪問 株式会社山田工務所	3
産方会長ショートインタビュー	4
会員異動 / スケジュール	4

伊豆に広がった月星の「笑顔の輪」



9月7日(土)～8日(日)の2日間に渡り中伊豆と熱川温泉に行って参りました。参加者は24名(内ビジター3名)門山会員と小川会員の見送りのもと千葉NTTビル前を7時30分出発。天気は残念ながら曇りでしたがアクアラインを通り東名で順調に最初の見学地、柿田川湧水。美味しい水を飲んで伊豆パノラマパークで昼食、天城越えを経て熱川温泉に16時に到着。温泉でさっぱりした後は宴会がにぎやかに始まりました。美味しい食事とお酒でその後は2次会まで大

変に盛り上がりました。

翌日の早朝にはオリンピックが東京に決定、なんと歴史的な朝を月星会親睦旅行で迎えました。

うすい先生は日本武道館の理事長職にあり、朝食では先生のご発声のもと乾杯となりました。その後は城ヶ崎海岸を散策して伊豆ガラスと工芸美術館を見学して帰途に着きました。

帰りのバスでは御園会員による高度な医学クイズで盛り上がり大変楽しい旅行となりました。(親睦委員長 吉田光一)

例会委員会

夕食例会

於：鰯割烹みどり

8月27日(火)、受付開始17:50分、食事は18:00から、例会を18:30から「鰯割烹 みどり」で開催しました

今月の卓話は千葉県がんセンター病院長、中川原 章様です。「自宅でおいしく食べてガンと闘う」について、お話を頂きました。

2人に1人はガンになる。

しかし、早期発見でガンは治る。

病院長のお書きになった本を頂き、自宅でおいしく食べる食事が良くなりました。

参加者も熱心に聞き、質疑応答も多かったです。

明日は我が身。

毎月いろいろな方による卓話を考えておりますので、よろしくお願いたします。

(例会委員長 土屋文武)



8月お誕生日の岩田さん



千葉県がんセンター病院長 中川原章先生

連載

うすい日出男の 〈こくせいふかん〉の目

いま必要な自衛隊見直し

“まあま主義”にピリオドを！

昭和25年、北朝鮮・中国軍の侵攻によって、米軍は朝鮮半島から追い落とされる危機に直面した。こうした苦境に立ち、マッカーサー元帥は敗戦国日本統治の最も中心的な政策だった“日本に二度と武力を持たせない！”とする禁を解き、ポツダム政令により日本の再軍備へと舵を切った。もし朝鮮半島が北朝鮮・中国軍の支配することとなれば、次は日本が標的になることは目に見えていたので、日本防衛はどうしても日本が自国の力で防衛する必要があったのだ。一度創設された警察予備隊は、サンフランシスコ条約の発効に伴い保安隊を経て、今日の自衛隊へと移行・充実して今日に至っている。本来ならば“自衛隊”となった時点で我が国は“軍隊”をもったことを認めて、憲法との整合性に鑑み法整備をすべきだったが、我が国の国民性のゆえか、「憲法は憲法として何はともあれ、自衛隊が国民に認められているのだから“まあまそれで良いのではないか”」として放置してきた。いま国民の多くが、実は自衛隊は軍隊！と理解していると思う。現在、憲法問題、集団的自衛権問題等多く

の矛盾を抱えながらの活動を余儀なくされている。

集団的自衛権の例外措置の検討を！

戦後68年を経た今日、いままではそうした中途半端な自衛隊でやりくりしてこられたが、もう、“まあま主義”はやめる時が来ていると思う。それは第一に中国の脅威の軍拡政策と尖閣列島周辺への圧力、第二に北朝鮮の脅威、そして第三に時あたかも安倍晋三が日本のリーダーとして立っていることと、戦後初めて衆議院で憲法改正発議に必要な3分の2の議席を持ち、参議院においても、友党の公明党を含めるとこれまた3分の2を有するに至り、戦後初めて憲法改正の可能性が極めて強くなってきているからだ。いま問題となっている憲法96条と9条の改正には国民的議論が必要であり、短期間で解決することは難しいことを考えると、当面、集団的自衛権として不行使としているものの中で、従来折々行ってきたように、自衛隊法の見直しや例外措置として集団的自衛権の個別自衛権への見直しをしていくことが必要だ。



元衆議院議員 白井日出男

第15回 (株)山田工務所

若き3代目社長 「100周年までは必ず」と誓う

創業は昭和25年、幅広い足跡を残し続ける
県内有数のゼネコン

祖父の積極経営で地歩を築く

山田工務所の創業は、戦後の混乱がやや収まってきた昭和25年。山田淳史現社長の祖父、故山田淳吉氏が個人営業で始めた。山田社長によれば「祖父の若い頃はいわゆる大工だったようで、その後、木材製作所として千葉市稲荷町で個人営業を始めた」と言う。

稲荷町の創業の地は、山田家の実家として受け継がれ、現在は山田社長が居住している。もっとも、山田工務所の現在の本社所在地も稲荷町なので、ほぼ創業の地がそのまま現在も事業の本拠地につながっていると見てよいかもしれない。

祖父は人一倍負けん気の強い性格だったようで、昭和29年には千葉市小中台町(当時)に木材販売所を開設、30年には一級建築士事務所を登録・併設するなど、積極的に事業拡大を図っていった。

株式会社に改組したのは昭和32年、代表取締役となった祖父はすぐに総合建設業者に登録し、いわゆるゼネコンとしての歩みをスタートさせた。

山田社長は、祖父についてこんなふうに語る。

「自分が乗っている車が追い抜かれたら何が何でも抜き返すような人だったと父から聞いています。会社の経営もその性格そのままに強気で進めていったのでしょう」

ゼネコンに名乗りをあげたのも、人から頭を下げて仕事をもらうのが性に合わず、元請でなければならぬという方針からである。

事業拡大に伴う資金需要には頭を下げる銀行融資よりも増資を繰り返して対応する方法を選んだ。現在、資本金は9600万円だが、これは6回にわたる増資によって積み上げてきたものだ。

この積極果敢な祖父の経営姿勢の下、同社は官公庁工事、民間工事、神社仏閣工事、土木工事など幅広い分野で県内の建築工事実績を積み上げ続けてきた。

同社の公式サイトを見ると、思わず「あの建物も山田工務所だったのか」という物件がズラリと並んでいる。

古いほうからほんの一例をあげれば、

- ・浅間神社新営工事(千葉市、昭和41年)
- ・東照寺本堂新築工事(八千代市、45年)
- ・千葉市立北谷津温水プール新築工事(55年)
- ・ハイタウン塩浜スーパーマーケット建築工事(56年)
- ・宗成ストア塩浜店新築工事(56年)
- ・海浜ニュータウン稲毛団地分譲住宅新築工事(58年)
- ・千葉興業銀行浜野・五井等支店新築工事(50年～)



等々である。興味のある方は、同社サイトの施工実績ページを見るとよいだろう。身近な建築物が同社の手によって作られているかもしれない。

こうして実績を積み上げてきた結果、今や千葉県内のゼネコンとしては売上順位が15位以内(帝国データバンク調べ)に入る有力企業にまで成長したのである。

平成20年、29歳で事業承継

山田淳史現社長が2代目の実父、故山田善郎氏から経営を引き継いだのは平成20年、29歳のときだった。2代目の父、善郎氏はまだ60歳だったが病床に伏してしまったため、まだ20代の若さだった淳史氏へのバトンタッチが決まったという経緯である。

先代は淳史氏への承継が実現してから3年ほどで他界している。この3年の間に、病床にありながらも淳史氏へ自らの思いの多くを伝え切ったのであろう。

では、現社長の淳史氏は父親の後を継ぐことを早いうちから決めていたのかというと、そうでもないらしい。

「建築は合わないと思っていました。どちらかというと、経営のほうには興味はあったのですが……」

しかし、「合わない」と言いながらも大学の専攻は必ずばり建築学科を選んでいる。おそらく、多少の迷いはあったものと推測されるが、父親の事業を継ぐことは意識していたからこそその学科選択なのであろう。

山田社長が大学を卒業したあとに就職したのは、全国ブランドのゼネコンである。

「名古屋や三重などの現場監督をたくさん経験しました。最後に東京に戻ってきてから退職して、この会社に入ったのです。承継する1年前のことでした」

10代の頃はあまり合わないと思っていた分野だったが、実際にこの世界に入って多くのことを勉強していくと、次第に興味湧いてきたのではないだろうか。こう話す。

「勉強することがたくさんあり、興味深い世界です。おそらく今が一番勉強していると思います」

もともと性に合っていると思っていたのは、経理、営業、総務だと山田社長は言う。これは、社長業にとっては必須の分野であるが、加えて他社修行時代に数多くの現場を経験し、現在も1週間に1度は現場を回っているのだからゼネコンの社長として十分強みを持っているように思える。

最後に、山田社長はこう語った。

「承継した年は、翌年が創業60周年というときでした。そこで100周年までは会社を存続させるという目標を立てたのです。この目標は実現させます」

(取材・文/奥平。次回企業、募集中)

前会長の理念を後押しする「笑顔の輪」

産方会長にショートインタビュー

今年度、月星会会長となった産方恒好さんは就任あいさつで、「人の輪・心の輪・笑顔の輪」というスローガンを掲げた。穴倉前会長が掲げた「人の輪・心の輪」に「笑顔の輪」を加えたものだ。このスローガンが意味するものは何か。突撃インタビューを試み、その意図するところを聞いてみた。

——穴倉前会長のスローガンに「笑顔の輪」が加わって、新しい産方スローガンになりました。素敵な言葉だと思いますが、その思いを聞かせてください。

産方 前会長の「人の輪・心の輪」に感動していて、私もそのスローガンをそっくりそのまま継承しようとも考えたのですが、それでは前会長に失礼かなと思い、「人の輪・心の輪」をさらにひと押しするキーワードとして「笑顔の輪」を付け足したのです。

——ひと押しのキーワードがなぜ「笑顔の輪」だったのですでしょうか？

産方 私は笑顔の力というものを信じています。笑顔には人間を、人間社会をより良いものにする、幸せにするすごい力を持っていると確信しています。この笑顔の力を否定する人はいないでしょうし、臼井先生を中心に自らの生き方に対して、そして千葉の地元を含めて広く社会に対する向上心を持って集まっている月星会にもぴったりと確信した次第です。

——人は独りでは生きられません。オギャーとこの世に生まれてきたときから、人と人との関係の中で生きています。その人と人との関係をより良いものにしていくのが笑顔です。前会長のスローガンは、人と人との関係を「輪」という言葉で表現しました。私も穴倉前会長のスローガンに心を動かされました。「笑顔の輪」はみごとに前会長のスローガンをフォローし、肉厚なものになりました。

産方 笑顔がより大きな力になるとき、その場に向上心が共有されているときだと思います。つまり、学びの心があるときです。だから月星会にぴったりなのです。研修

会や例会にもスローガンを実現する工夫をどんどんしようと思って努力しています。

——スローガンがますます輝いて来るようなメッセージをおっしゃいますね。

産方 それほど大げさなものではありませんが……。あつ、それと言葉にはしていませんが、笑顔の力と同時かその手前ぐらいに「歌の力」というものも信じています。東日本大震災を引き合いに出すまでもなく、辛いとき、悲しいときには、みんなで唄う歌に心が救われた経験を誰もがしているのではないのでしょうか。でも歌が力になるのは辛いときばかりではありません。みんなで唄う歌は、いつでも心を和ませ、前向きな幸せ感を醸成してくれます。最近、例会の最後にみんなで「ふるさと」を唄っているのですが、そういう意味を含めた新しい試みなのです。（聞き手・文責／奥平）



10・11・12月のスケジュール

10/9(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
10/12(土)	第1回経営研修会	17:30受付 18:00開会	会場：ホテルグリーンタワー幕張 講師：富塚國興氏 (株)ベイエフエム 前代表取締役社長 「成長企業の社長の条件とは？」 参加費：研修会 会員・ビジター 無料 懇親会 会員・ビジター 5,000円
10/22(火)	定例夕食会	18:30開会	参加費 3,000円 会場：鮎割烹みどり 卓話未定
11/13(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
11/26(火)	定例夕食会	18:30開会	参加費 3,000円 会場：鮎割烹みどり 卓話未定
12/11(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
12/24(火)	定例夕食会	18:30開会	参加費 3,000円 会場：鮎割烹みどり 卓話未定

会員異動

林 泉氏 (株)セレモ 代表取締役会長・CEO勇退
セレモグループ相談役に就任

編集後記

数年前から千葉市歯科医師会の軟式野球チームに入って、白球を追いかけています。というとなんだかカッコ良さそうですが、ホントに捕まえられずに、追いかけていることがほとんどです。レベルは小6に勝てるか？といったところでしょうか。

それでも練習をしていくと、「それなりに」上達することが自分でも分かり、それが楽しみになり続けている理由の一つとなっています。もう一つはいい年したオヤジ達がユニフォームを揃えて、一つ一つのプレーに一喜一憂することが楽しいです。反省会もまた楽し。あれっ？なんだかカッコいいですか？（星野）